

## 「悪魔の試み」

ルカの福音書 4:1~15

### はじめに

今日の箇所は、イエシュアが悪魔から様々な「試み」誘惑を受けられるという場面です。この時のイエシュアの対応、誘惑へのその対処法から、私たちもそれに倣うように、真似るよという教えを説くことが教会ではよくなされています。その教えを端的に述べるなら、それは「聖霊に満たされましょう」そして悪魔に対抗するための「御言葉を覚えましょう」ということになるのでしょうか。それは一体どうなったら聖霊に満たされたとわかるのか、またどれくらい御言葉を覚えたら実践できるのかという疑問は残るものの、イエシュアご自身が実際にそのようになさっておられますので、教え自体は正しいと言えます。しかし、あれをする、これをしない、できている、できていないというようなこの考え方では、私たちはいつまで経っても、聖書に記されたその壮大な神のご計画に目を留めることには至りません。私たちは悪魔に勝ったり負けたりする自分に目を留めるのではなく、必ず勝利される御方である神の御子、主イエシュアに目を留め、この御方がどのような勝利を目指し、そしてついには何を成し遂げられるのかということにこそ目を留めるべきではないでしょうか。それでは、今日もその神が目を留めておられる事に目を向けてまいりましょう。聖霊の助けがありますように。

### 1. 試み

ルカの福音書【新改訳 2017】

4:1 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。そして御霊によって荒野に導かれ、  
4:2 四十日間、悪魔の試みを受けられた。その間イエスは何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。

「試みる、試す」ことをヘブル語でナーサー(נָסָה)と言います。この言葉が聖書で最初に使われた箇所は創世記 22:1 ですが、これがどのような文脈、状況の中で使われた言葉であるかをよく見てください。

創世記【新改訳 2017】

21:22 そのころ、アビメレクとその軍の長ピコルがアブラハムに言った。「あなたが何をしても、神はあなたとともにおられます。

21:23 それで今、ここで神によって私に誓ってください。私と私の子孫を裏切らないと。そして、私があなたに示した誠意にふさわしく、私にも、またあなたが寄留しているこの土地に対しても、誠意を示してください。」

21:24 アブラハムは「私は誓います」と言った。

21:27 そこでアブラハムは羊と牛を取って、アビメレクに与えた。こうして二人は契約を結んだ。

21:34 アブラハムは長い間、ペリシテ人の地に寄留した。

22:1 これらの出来事の後、神がアブラハムを試練にあわせられた。

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」

アブラハムはペリシテ人と契約を結び、長らく彼らの地、すなわち異邦人の地に住みつき、異邦人の中にありました。しかし神はナーサー「試練」によって彼を「モリヤの地」の「一つの山の上」、すなわちエルサレムの神殿（Ⅱ歴代誌 3:1）がやがて建てられる場所へと導かれたのです。

#### Ⅱ歴代誌【新改訳 2017】

3:1 ソロモンは、エルサレムのモリヤの山で【主】の宮の建築を始めた。そこは、主が父ダビデにご自分を現され、ダビデが準備していた場所で、エブス人オルナンの打ち場があったところである。

ですから「試み」る、ナーサーとは本来、アブラハムとその子すなわちその子孫であるイスラエルの民、ユダヤ人とも呼ばれるこの民をエルサレムへ、そこに建てられる「【主】の宮」へと導く、行かせる、帰らせる、集めることを指し示す言葉なのです。

またイエシュアは「四十」日の間、荒野におられました。その意味もまた同様です。かつてイスラエルの民はエジプトの地にあり、そこで奴隷となっていました。しかし神は預言者モーセを遣わし、これを解放し、この民を荒野へと導き出され、そこで「四十」年の間、神は彼らイスラエルをご自分の民として養い、教え、そして「試み」られました。それは彼らを彼らの故郷、神がアブラハム、イサク、ヤコブに約束されたその地へと帰らせ、そこで神の民、聖なる民として生かす、住まわせるためでした。ですからイエシュアが「四十」日の間、荒野で「試み」を受けられたというこの出来事には、神がイスラエルを神の民、主の宮、神殿で仕える祭司の民としてふさわしく整え、建て上げ、そしてその約束の地、宮へと導き入れるという神のご計画が表されており、そしてそれはこのメシアであるイエシュアによってのみ成し遂げられるのだということがここには表されているのです。

このように、イエシュアの受けられた「試み」とは、神のご計画の視点で捉えるならば、それは神がイスラエルの民をやがて神の所有の民として新しく造り変え、主の宮で仕える者とされる、ということを目指し示した言葉、出来事なのです。まさにこう預言されているとおりです。

#### 詩篇【新改訳 2017】

102:18 このことが後の世代のために書き記され、新しく造られる民が【主】を賛美しますように。

102:19 【主】はその聖なるいと高き所から見下ろし、天から地の上に目を注がれました。

102:20 捕らわれ人のうめきを聞き、死に定められた者たちを解き放つために。

102:21 人々が【主】の御名をシオンで、主の誉れをエルサレムで語り告げるために。

102:22 諸国の民や王国が一つに集められて、【主】に仕えるために。

「諸国の民や王国が一つに集められて」ともあるように、イスラエルだけではなく、やがてすべての国民が主に仕えるようになります。しかしその中心はあくまでも「シオン」すなわちイスラエルの首都「エルサレム」です。その重要性が次からのイエシュアと悪魔とのやり取りの中にも同様に表されています。

## 2. この石

ルカの福音書【新改訳 2017】

4:3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」

4:4 イエスは悪魔に答えられた。『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」

この「石」エヴェン(אֶבֶן)は本来、ただの道ばたの石ころではなく「シヨハム石(創世記 2:12)」、または「縞めのう、エメラルド」とも訳される、宝石の一種を指し示した言葉です。以下の御言葉にこうあります。

出エジプト記【新改訳 2017】

25:7 エポデヤ胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石である。

28:9 二つの縞めのうを取り、その上にイスラエルの息子たちの名を刻む。

このようにエヴェンとは本来、「エポデヤ胸当て」を身につける祭司、そして十二の部族で構成される「イスラエルの息子たち」を指し示すものであり、これはやがて祭司の王国、聖なる国民(出エジプト 19:6)となるイスラエルの民を指し示し、やがて神が彼らをそのような民とされる、という神のご計画が表された言葉なのです。悪魔はこの石が「パンになるように命じなさい」と言っていますが、これもまた神のご計画を表しています。「パン」をヘブル語でレヘム(לֶחֶם)と言いますが、その最初の言及を見てください。

創世記【新改訳 2017】

3:17 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。

3:18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

この聖書で最初のレヘムは、食物全般を指す「糧」と訳されています。これは罪を犯したアダムに対して神が語られたものですが、神は彼に「糧を得、ついにはその大地に…そこから取られた…土のちりに帰る」と言っておられます。これはただの死というよりも、もう一度最初から、まったく新しく造り直すことを目的とした死という意味で受け取るべき御言葉であり、先にも述べた「新しく造られる民」よみがえらせる者としてのイスラエル王国の復活、再興を指し示すものです。イエシュアの十字架の死とその復活はそのさきがけであり初穂と呼ばれます。つまりイスラエルもやがてこうなることをイエシュアは身をもって示されたのです。ですから神は今日のイスラエル、ユダヤ人とも呼ばれる彼らをご自分の民として新しく造られるためにまずは壊す、一度死なせる、滅ぼされます。その役目を担わされているのが「この石に、パンになるように命じなさい」と言った悪魔です。たしかに悪魔は神に敵対する存在ですが、神にとっての脅威とはなりえません。悪魔はあくまでも神の物語の役者の一人にすぎないことを覚えましょう。

そしてイエシュアはこう言われます「人はパンだけで生きるのではない」と。今のレヘムの本来の意味で解き明かすならばこうです。人は、**イスラエルは滅びたままではない、決して死だけで終わるものではない**。つまり神の民として「**新しく造られる**」とイエシュアは言っておられるのです。

このように「**この石**」はパンになる、イスラエルは滅びると悪魔は言いましたが、イエシュアはそれで終わりではない、「**新しく造られる**」のだと言われました。かつてアブラハムの子イサクの子ヤコブ、イスラエルはこう言いました。「**この石は神の家**」となると。

創世記【新改訳 2017】

28:20 ヤコブは誓願を立てた。「神が私とともにおられて、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、

28:21 無事に父の家に帰らせてくださるなら、【主】は私の神となり、

28:22 石の柱として立てた**この石**は神の家となります。

ヤコブすなわちイスラエルはここで「神が…父の家に帰らせてくださるなら…この石は神の家となります」と言っています。「**試み**」ナーサーとは神がイスラエルを彼らの故郷、約束の地に行かせる、そこに建てられる主の宮、彼らの御父である神の「家に帰らせ」るものであると述べましたが、その事実がここにも同様に表されています。このように、神は「**この石**」であるイスラエルを「**神の家**」として、やがて必ずまったく新しく建て直されるのです。

### 3. 高いところ

ルカの福音書【新改訳 2017】

4:5 すると悪魔はイエスを高いところに連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて、

4:6 こう言った。「このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげよう。それは私に任されていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。

4:7 だから、もしあなたが私の前にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。」

4:8 イエスは悪魔に答えられた。「『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」

ここでのイエシュアの御言葉「**あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい**」は、以下の引用です。これも文脈に注意して見てください。

申命記【新改訳 2017】

6:10 あなたの神、【主】は、あなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなたを導き入れ、あなたが建てたのではない、大きくてすばらしい町々、

6:11 あなたが満たしたのではない、あらゆる良い物で満ちた家々、あなたが掘ったのではない掘り井戸、あなたが植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与えてくださる。それであなたは、食べて満ち足りるとき、

6:12 気をつけて、エジプトの地、奴隷の家からあなたを導き出された【主】を忘れないようにしなさい。

6:13 あなたの神、【主】を恐れ、主に仕えなさい。また御名によって誓いなさい。

6:14 ほかの神々に、すなわち、あなたがたの周りにいる諸国の民の神々に従って行ってはならない。

ここでも神である主という御方が、イスラエルの民を異邦の地から約束の地へと導かれる御方であることが強調されています。

またイエシュアは「高いところ」、地上で最も高い権力を持った場所から、悪魔に対し、その支配下にある「世界のすべての国々」に対して語っておられます。「あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい」と。その姿は以下の預言を指し示しています。

イザヤ書【新改訳 2017】

2:1 アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見たことば。

2:2 終わりの日に、【主】の家の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。

2:3 多くの民族が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

この預言は「終わりの日に」イスラエルの民と「エルサレム」の上に成就することがはっきりと記されています。イエシュアはやがてイスラエルの王として「すべての国々」の王の王、主の主として「エルサレム」から【主】のことばをもってこの全世界を統べ治められます。

#### 4. 試みの終わり

ルカの福音書【新改訳 2017】

4:9 また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから下に身を投げなさい。」

4:10 『神は、あなたのために御使いたちに命じて、あなたを守られる。

4:11 彼らは、その両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」

4:12 するとイエスは答えられた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とされている。」

4:13 悪魔はあらゆる試みを終えると、しばらくの間イエスから離れた。

そして悪魔はその試みの最後に、イエシュアを荒野から「エルサレム…神殿」へと連れて行きます。先にも述べたように、「試みる」ナーサーとはまさにこのようにエルサレムの神殿をその目的地とするものだということがわかります。そこでイエシュアは「試みてはならない」と言われ、また「悪魔はあらゆる試みを終える」ともあります。イエシュアがエルサレムに、神殿に来られるその日、すべての試みは終わるのです。それはイエシュアの地上再臨を指し示しています。そのイエシュアが成し遂げられることこそが聖書の指し示す「救い」と呼ばれるものの、その具体的な現れ、成就です。悪魔は知ってか知らずか、それを歌った詩篇にある御言葉を引用しています。

詩篇【新改訳 2017】

- 91:1 いと高き方の隠れ場に**住む者**、その人は全能者の陰に宿る。
- 91:2 私は【主】に申し上げよう。「私の避け所、私の砦、私が信頼する私の神」と。
- 91:3 主こそ狩人の罾から、破滅をもたらす疫病から、あなたを救い出される。
- 91:9 それはわが避け所、【主】を、いと高き方を、あなたが**自分の住まい**としたからである。
- 91:10 わざわいはあなたに降りかからず、疫病もあなたの天幕に近づかない。
- 91:11 主があなたのために御使いたちに命じて、あなたのすべての道で**あなたを守られるからだ。**
- 91:12 彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする。
- 91:13 あなたは獅子とコブラを踏みつけ、若獅子と蛇を踏みにじる。

悪魔はこの詩篇 91:11 と 12 を引用していますが、その次の 13 節「あなたは獅子とコブラを踏みつけ、若獅子と蛇を踏みにじる」という歌が、自らの破滅を預言しているものであることを理解していたのでしょうか。いずれにせよここに悪魔の敗北が記されている以上、これもまた必ず成就します。そのようにしてイエシュアはイスラエルの民を悪魔の仕掛ける「罾から、破滅をもたらす疫病から…救い出される」のです。

そしてこの詩篇 91 篇は「いと高き方の隠れ場に**住む者**」主を「**自分の住まい**」とするという、神である主と人がともに住む神の家を表したものです。イエシュアの地上再臨によって、この時イエシュアが立たれたエルサレムの神殿がその中心、象徴となることが「**イエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて**」という記述には表されているのです。その時こそイエシュアは「**すべての人に称賛され**」る存在となられます。次の箇所その事実が「型」として表されたものです。

## 5. 喜び

ルカの福音書【新改訳 2017】

- 4:14 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が周辺一帯に広まった。
- 4:15 イエスは彼らの会堂で教え、すべての人に称賛された。

ここでイエシュアは「ガリラヤに帰られた」とありますが、この地はイスラエルの中に寄留している異邦人、つまりイスラエルにつながる異邦人を指し示した地名です。

ヨシュア記【新改訳 2017】

- 20:7 彼らはナフタリの山地の**ガリラヤ**のケデシュ…を聖別した。
- 20:9 これらはすべてのイスラエルの子ら、および**彼らの間に寄留している者**のために設けられた町である。

イザヤ書【新改訳 2017】

- 9:1 しかし、苦しみがあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、**異邦の民のガリラヤ**は榮譽を受ける。

このように、イエシュアの地上再臨はイスラエルだけでなく異邦人にも、イスラエルの「**間に寄留している者**」イスラエルにつながる「**異邦の民**」にも、すなわち全世界のすべての国々に救いをもたらすものであり、すべての人がイエシュアを「**称賛**」ほめたたえ、礼拝するようになる、というものです。これが神の家である千年王国、メシア王国とも呼ばれる、イスラエルの王なるメシアであるイエシュアを中心、または頭とする御国、神の国の完成した姿です。それは私たちが日々の生活の中で悪魔の誘惑に勝とうが負けようが一切影響されることなく必ず成就します。私たちは私たち自身が悪魔に勝つことを求めるべきでしょうか、それともこの神の国に迎え入れられることを求めるべきでしょうか。イエシュアはこう言っておられます。

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:17 さて、七十二人が喜んで帰って来て言った。「主よ。あなたの御名を用いると、悪霊どもでさえ私たちに服従します。」

10:18 イエスは彼らに言われた。「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。」

10:19 確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。

10:20 しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

私たちの喜ぶべき喜び、目を留めるべき事実は、今のこの世にはありません。今はただ「天に書き記されている」のみです。しかしやがて今のこの世が終わる時、それは天から降って来られる御方、イエシュアによってこの地上に現わされ、国として建てられます。そこに私たちの名が、その国籍が記されていることを覚え、これを喜びましょう。